

### 平成22年度 府立茨田高等学校 学校評価報告書

#### 1 めざす学校像

「夢実現」「夢支援」  
生徒自らが将来の夢や志をみつけその実現に向けて努力する過程で、これを学校としてサポートする教育を実践するため、学習習慣の定着や基礎学力の向上、生徒・教員のコミュニケーション力（指導力）の育成、地域に開かれた学校づくりなどに一丸となって取り組む学校。

#### 2 本年度の教育目標

生きる力の獲得(学習指導)：「進学に向けた学力」の向上、「茨田検定」の充実。  
 活気ある学校づくり(生徒指導)：「生徒指導改善大作戦」の定着、「部活動」の活性化。  
 自己実現への取組(進路指導)：「コミュニケーションコース」の充実、「生徒リーダー」の育成。

#### 3 本年度の取組計画及び自己評価

領域	具体的な取組計画 [平成22年4月 記入]	取組状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	<input type="checkbox"/> 生きる力の獲得(学習指導の充実) それぞれの(個に応じた)「夢実現」に向けた学力の向上を図る。特に「基礎学力の定着」と「進学に向けた学力の向上」について重点的に取組む。 (1)基礎的・基本的な学力の定着に向けて「茨田検定」などを充実する。 (2)就職希望者への「基礎学力の定着」と進学希望者の学力向上へ向けた組織的取組を進め、それぞれの学力向上を図る。 ①習熟度別授業の実施…英語、数学。 ②就職・進学講習の実施。 (3)大学生を活用し、生徒の学習意欲を向上させる取組をすすめる。 ※授業を大切に「学習環境」を確立し、「学習習慣」の定着と、「学習意欲」の向上を図る。	<input type="checkbox"/> それぞれの(個に応じた)学力向上に成果 (1)平成22年度府立高等学校教育課題解決プロジェクトを受けた実践研究校(府教委・全8校)の指定を受け、「茨田検定」を通じ学習意欲を向上させることにより、基礎学力定着につなげる取組を実践。次の成果を得た。 ◀「茨田検定」にまじめに取り組んだ1年生の割合▶ 前年度比20ポイント増。過去最高の値をマーク。 (2)習熟度別クラス編成等の取組。 ①数学A、英語I(いずれも1年生)で習熟度別クラス編成を導入。次の成果を得た。 ◀英語がわかるようになった生徒▶ 標準クラス62%、応用クラス59%といずれも高率。 数学Aについても同様の傾向。 ②就職講座(3年)を毎週1時間7時間目を実施。 ③進学講習の定期的実施。 (3)大阪大学総合演習を受け入れ、学生企画による「茨田ラウンジ」(学生の専門性を活かした学習会)を実施。 およそ20名の生徒が教科外活動として学問の楽しさに触れる経験をした。	<input type="checkbox"/> それぞれの学力向上をさらに推進 (1)「学習ソフト」等を活用した「茨田検定」問題の精選・体系化。就職につながる実践的な問題の導入等「茨田検定」の充実。 (2)習熟度別クラス編成の拡充。 (3)授業開始時の「5分間指導」の徹底等による授業環境づくりの推進。 (4)「使える英語プロジェクト」(府教委・全24校H23から3年間の指定)を活用した英語コミュニケーション力の向上。 (5)1年次「振り返り学習」の制度化。
(2) 生徒指導等	<input type="checkbox"/> 活気ある学校づくり(生徒指導の充実) (1)「基本的な生活習慣」を確立するとともに「規範意識」を高揚し、「人権尊重の精神」を涵養するために「夢実現に向けて」を合言葉にH19年度から始めた「生徒指導改善大作戦」(教員が一丸となって服装、髪型、遅刻指導や落ち着いた学習環境づくり等を徹底する取組)をより充実させる。 (2)「校内規律」を確立し「あいさつ」の励行などを通じて「明朗な校風」をつくる。 (3)毎週金曜日の「部活動の日」を中心に「入部率」を向上させ、部活動の活性化を図る。	<input type="checkbox"/> 「生徒指導改善大作戦」の成果 (1)髪型服装のルールを守るとともに、落ち着いた学習環境づくりもできている。さらに1年生では朝のSHR導入により遅刻数が激減。一人あたりの遅刻数平均が約6割減。 (2)生徒会の「朝のあいさつ運動」、集会や授業等での「あいさつ指導」など、常時、あいさつの励行を行い、あいさつをする生徒が増加し、来客からも「おほめの言葉」をいただくことも多くなった。 (3)「部活動の日」を設定し部活動指導を徹底するなどの取組を強化したことなどにより、入部率が向上。 ◀入部率の向上(前年度比)▶ H21; 約20%→H22; 約35%(15ポイント増)	<input type="checkbox"/> 「生徒指導改善大作戦」のさらなる充実 (1)家庭や中学校と連携した指導の充実。 (2)さらなる教育相談の充実。 <input type="checkbox"/> 「入部率」の向上と部活動の活性化 (1)体験入部の充実。 (2)中学生対象のスポーツイベントや種目毎の「茨田カップ」大会の開催など。 (3)「部活動の日」のさらなる充実。 (4)地域連携を活用した部活動の活性化。
(3) 進路指導等	<input type="checkbox"/> 「夢実現」に向けた支援 (1)「コミュニケーションコース」の取組等を通じ「人間力」の向上を図り、生徒会やクラスのリーダーを育成する。また、そのことにより、すべての生徒が「達成感」や「充実感」のある学校生活を送れるようにする。 (2)「就職支援コーディネーター」の活用や「高大連携」等を通じて「キャリア意識」を高め、「自己実現」に積極的に取り組む意識を醸成する。 (3)学校・家庭・地域・中学校の連携を強化し、地域社会に根ざした学校づくりに努めるとともに学校のさまざまな取組について、家庭や地域はもとより、学区内の全中学校等にも積極的に情報発信していく。 ①保護者との連携…茨田緊急メールサービスを全員登録とする働きかけを行うとともに引き続き自由登録の茨田スクールメールサービスを活用する。 (4)OJTの促進。(青葉会他)	<input type="checkbox"/> 「コミュニケーションコース」本格始動 (1)新設したコミュニケーションコース選択者は26名を数え、H23年度からコース選択種目の履修を開始。 ①「コミニケ委員会」の新設。 教員が教科や分掌を超えて生徒や教員のコミュニケーション力(指導力)の向上に向けた方策を検討・実行できるようにした。 ②芦屋大学等の学識経験者の協力を得て「コミニケプロジェクト委員会」を新設。教職員研修講師や選択授業への参画(予定)等の支援を受けた。 ③コミュニケーションやピア・メディエーション(仲間同士による紛争解決)に関する教職員研修の充実。芦屋大学等の大学やNPO法人シヴィルプロネット関西の協力を得て、各種研修会を実施。教職員のコミュニケーション力(指導力)向上を図っている。 (2)「就職支援コーディネーター」の活用。 週5日の配置を得、求人企業の新規開拓や模擬面接指導等就職率向上のための支援を受けた。 (3)「学校協議会」と「さまざまな連携」の取組。 ①「学校協議会」を年3回開催。地域連携の在り方について徹底審議。協議会委員を対象とした「授業観察」を実施。同日に学校協議会を開催し、生徒の現状を把握した上で地域連携に関する意見をお聞きしこれをもとに協議した。 ②若手教員を中心に「茨田PR隊」を結成。多角的な広報活動を展開。学校説明会参加者数はほぼ倍増。 ・学校紹介DVDの作成と配付。学校説明会等での活用。 (200枚を学区内全中学校等に配付) ・学校紹介用広報紙「茨田NEWS」の増刷。 H21年度5号→H22年度5号+特集号1号 ・学校説明会における生徒によるプレゼンテーション 生徒会執行部役員生徒による。 ③茨田緊急メールサービスには多くの保護者に登録いただいた。 (4)若手教員育成のための研修会及び研究授業の実施。(OJT) 研修会7回 研究授業や授業見学週間の実施等	<input type="checkbox"/> 「コミュニケーションコース」の充実 (1)コース選択科目の充実。 (2)「コミニケプロジェクト委員会」の有効活用。 <input type="checkbox"/> 生徒・教員のコミュニケーション力(指導力)向上 (1)職員研修の充実。 (2)生徒対象の講習やワークの充実。 <input type="checkbox"/> 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」(申請中)を活用した「舞台表現」(コース選択科目)の充実。 (1)プロの俳優による授業。 <input type="checkbox"/> 「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」(申請中)を活用したキャリア教育の充実。 (1)「就職支援コーディネーター」の活用促進。 (2)就業体験等の充実。

#### 4 学校教育自己診断における結果と分析 [平成22年12月 実施分]

\*実施対象 ( 教職員 ・ 生徒 ・ 保護者 ・ その他 )

教職員	教材の精選(90%)や少人数指導の工夫(96%)は充実しているものの、問題解決的な学習指導や参加体験型学習指導の工夫は不十分と感じている。正確な実態把握のもと生徒が「達成感」や「充実感」を得やすい工夫を学校として検討する必要がある。
生徒	学校が楽しいと感じている生徒は比較的多い(60%)が、部活動の取組に満足している生徒は少ない(42%)。このことから、生徒にとっての学校の魅力を増すためには、部活動の振興が不可欠と考えられる。
保護者	学校は保護者の相談に適切に対応していると答えた保護者が多い(78%)反面、教育方針をわかりやすく伝達していると答えた保護者は多くない(57%)。このことから、さらなる情報の発信や連携が必要と考えられる。

#### 5 学校協議会における提言内容

\*実施日 第1回(7月12日) 第2回(10月28日) 第3回(2月25日)

\*委員構成  
元大学教授(元府立高等学校長)、報道関係者(元PTA会長)  
地元中学校長2名、弁護士、地域の防犯関係者、地元自治会連合会長  
学識経験者(元バドミントン世界チャンピオン)

\*内容  
・部活動活性化のため、中学生にアプローチする方法を考える。  
・良くなってきている茨田高校をもっとPRする必要がある。  
・まつり等地域の行事への参加を含め、地域連携を積極的に検討する。  
・学校教育自己診断結果を積極的に学校改善や広報に活用する。